

枚方版 ICT教育モデル

ICTの活用による新しい学校教育の確立



枚方市教育委員会
第6版(令和8年3月改訂)

－ 目次 －

1. はじめに

[p.1](#)

2. 枚方版 ICT教育モデル作成の背景

[p.2](#)

- (1) [20年後の未来](#)
- (2) [枚方版 ICT教育モデルの位置づけ](#)
- (3) [枚方版 ICT教育モデルの全体図](#)

3. 子どもたちに「生きる力」を育む

[p.5](#)

- (1) [これからの子どもたちに必要な資質・能力](#)
- (2) [セルラー通信でつながり続ける](#)
- (3) [枚方市が大切にしている5つのCの視点](#)
- (4) [授業と家庭学習のシームレスな学び](#)
- (5) [9年間で身につける力「Growing Map」](#)
- (6) [デジタル・シティズンシップ教育](#)

4. 学校が変わる!

[p.15](#)

- (1) [授業改善・家庭学習](#)
- (2) [全国学力・学習状況調査から](#)
- (3) [子ども支援・家庭連携](#)
- (4) [働き方改革・業務改善](#)
- (5) [1人1台端末と健康](#)
- (6) [学校に登校できない児童・生徒の学習指導](#)
- (7) [生成AI「も」学びのパートナー](#)

5. モデルカリキュラム

[p.30](#)

- (1) [大阪府情報活用能力ステップシート](#)
- (2) [年間指導計画 小学6年\(例\)](#)

枚方版 ICT教育モデル作成の目的

今の子どもたちが迎える未来は、**予測困難な時代**とされています。社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」が到来する中、本市では、国の「**GIGAスクール構想**」も踏まえて、市内公立小・中学校において、**児童・生徒に1人1台端末**を配備しました。

このモデルは、**未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力**を育成するために、1人1台端末を効果的に活用した枚方市のめざす教育を示すものです。

枚方市は、セルラーモデルのiPadです。

1人1台端末は、操作が簡単で、直感的に使えるiPadを選びました。起動も速く、自分の考えを分かりやすく表現できます。

セルラーモデルなので、「いつでも」「どこでも」使うことができます。子どもたちが、鉛筆やノートのような文房具の1つとして使いこなしていくことをめざします。

デジタルの力でリアルな学びを充実

1人1台端末は、リアルな学びを支える**最高のパートナー**です。デジタルの力によって、友だちの考えを瞬時に確認でき、より詳しく聞くことで話し合い活動が充実します。また、友だちと共同編集で資料や作品を創り上げることもできます。デジタルアンケートによって、結果が自動でグラフになり、素敵なプレゼンテーションによって、自分の考えを的確に相手に届けることもできます。

デジタルの力で、教育活動での**リアルな体験を一層充実**させることができます。

(1) 20年後の未来

今から26年前の2000年、この年の流行語年間大賞は「IT革命」。しかし、まだスマートフォンもタブレット端末もありませんでした。学校では、土曜日に授業が行われていました。これから先、どのような未来が待っているのでしょうか。

Society 5.0

AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変化する超スマート社会（Society 5.0）の到来が予想。

【出典】内閣府総合科学技術・イノベーション会議ホームページ等より作成

人生100年時代

世界一の長寿社会を迎え、教育・雇用・退職後という伝統的な人生モデルからマルチステージのモデルへ変化。

2007年生まれの子どもの50%が到達すると期待される年齢

国	年齢
日本	107歳
アメリカ	104歳
イタリア	104歳
フランス	104歳
カナダ	104歳
イギリス	103歳
ドイツ	102歳

【出典】平成29年9月11日 人生100年時代構想会議資料4-2 リンダ・グラットン議員提出資料(事務局による日本語訳)より

グローバル化

在留外国人数、海外在留邦人数ともに増。社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化。

在留外国人数

【出典】在留外国人統計(法務省 平成29年6月末)

海外在留邦人数推移

【出典】海外在留邦人数調査統計(外務省 平成29年要約版)

人口減少

国立社会保障・人口問題研究所の予測では、少子高齢化の進行により、2040年には年少人口が1,194万人、生産年齢人口が5,978万人まで減少。

【出典】1920年～2010年「人口推計」(総務省)、2015年～2065年「日本の将来推計人口(平成29年推計)」(国立社会保障・人口問題研究所)

図のように、情報技術の高度化、国境を越えた交流の活性化、少子高齢化等、現状からも誰も経験をしたことがない未来が予測できます。さらに、情報技術の高度化により、新たな価値が次々に生まれ、人が生み出した技術でさえも、人の想像を超えるものとなっています。

そうすると、20年後の未来は全く予測も想像もできない出来事が起こっているかもしれません。

20年後には、小学1年生が26歳、中学3年生が35歳になります。

子どもたちが自らの可能性を最大限に発揮し、主体的によりよい社会の創り手となり、幸せに生活するためには、学校教育の中でどのような力を身につけていく必要があるのでしょうか。

あなたは、子どもたちにどのような力が必要だと思いますか。



(2) 枚方版 ICT教育モデルの位置づけ

予測困難な時代を生きる子どもたちが、必要な資質・能力を身につけるために、枚方市では、以下のように「枚方市教育大綱」、「枚方市教育振興基本計画」、「1人1台端末更新に係る各種計画」を策定しています。そして、より具体的な教育の在り方を示すため、「枚方版 ICT教育モデル」を作成しました。

枚方市教育大綱（抜粋）

枚方市の教育理念

『夢と志を持ち、可能性に挑戦する“枚方のこども”の育成』
～子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす枚方の教育～

<重点方針1 社会を生き抜く力の育成>

- ・一人ひとりの教育的ニーズを大切にし、1人1台端末も活用した個別最適で協働的な学びにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現します。
- ・変化の激しい社会においても、力強く生き抜くために必要な、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の育成に取り組みます。

枚方市教育振興基本計画（抜粋）

教育目標 学びあい、つながりあい、一人ひとりの未来をひらく
～個人と社会のウェルビーイングの実現をめざし、可能性を最大限に伸ばす～

基本方策1 確かな学力と自立を育む教育の充実

仮想空間やデジタル技術、ネットワークの活用が一般化された超スマート社会(Society 5.0)に対応するため、プログラミング教育の推進や情報活用能力のさらなる育成の視点も踏まえながら、ICT活用による新しい学校教育の確立に向けた「枚方版ICT教育モデル」や国のGIGAスクール構想に基づき、1人1台端末等のICTを活用した協働型・双方向型の授業及び個別最適化された学びの一層の推進に取り組みます。

重点的に進める取組

- (1) 社会を生き抜く力の育成
 - ・1人1台端末を活用した個別最適で協働的な学びの推進による「主体的・対話的で深い学び」の実現
- (3) 誰一人取り残されない教育の実現
 - ・不登校の児童・生徒が登校しやすい学校づくりや、学校復帰以外の選択肢を含めた支援、ICT等を活用した学習支援など個に応じた取り組みの推進
 - ・支援が必要な児童・生徒に対する1人1台端末などの効果的なICT活用による支援
 - ・一人ひとりの学力の進度に合わせた家庭学習や自学自習などICTの活用による個別最適化された学びの実現

1人1台端末更新に係る各種計画

端末整備・更新計画

ネットワーク整備計画

校務DX計画

1人1台端末に利活用に係る計画

1人1台端末活用とクラウド環境を前提とした「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現に向けて、子どもたちが課題を解決するために学習過程や学習形態、何を使って学ぶかなどを自己選択・自己決定していく学びを推進します。

枚方版ICT教育モデル

(3) 枚方版 ICT教育モデルの全体図

全体のイメージ図です。セルラーモデルの1人1台端末の特長を生かし、学校と家庭がシームレスにつながることで、国が示す資質・能力の育成をめざします。また、枚方市が大切にしていける「5つのC」の視点も意識しながら、教育目標の達成に向けて様々な取組を推進していきます。

枚方市の教育目標

学びあい、つながりあい、一人ひとりの未来をひらく

～個人と社会のウェルビーイングの実現をめざし、可能性を最大限に伸ばす～

国の示す資質・能力

学びに向かう力、
人間性等

生きる力

知識及び技能

思考力、判断力、
表現力等

言語能力

情報活用能力

問題発見・解決能力

学校と家庭のシームレスな学びやつながり

コミュニケーション

チャレンジ

コラボレーション

枚方市が大切にしている5つのCの視点

クリエイティビティ

クリティカルシンキング

クラウド

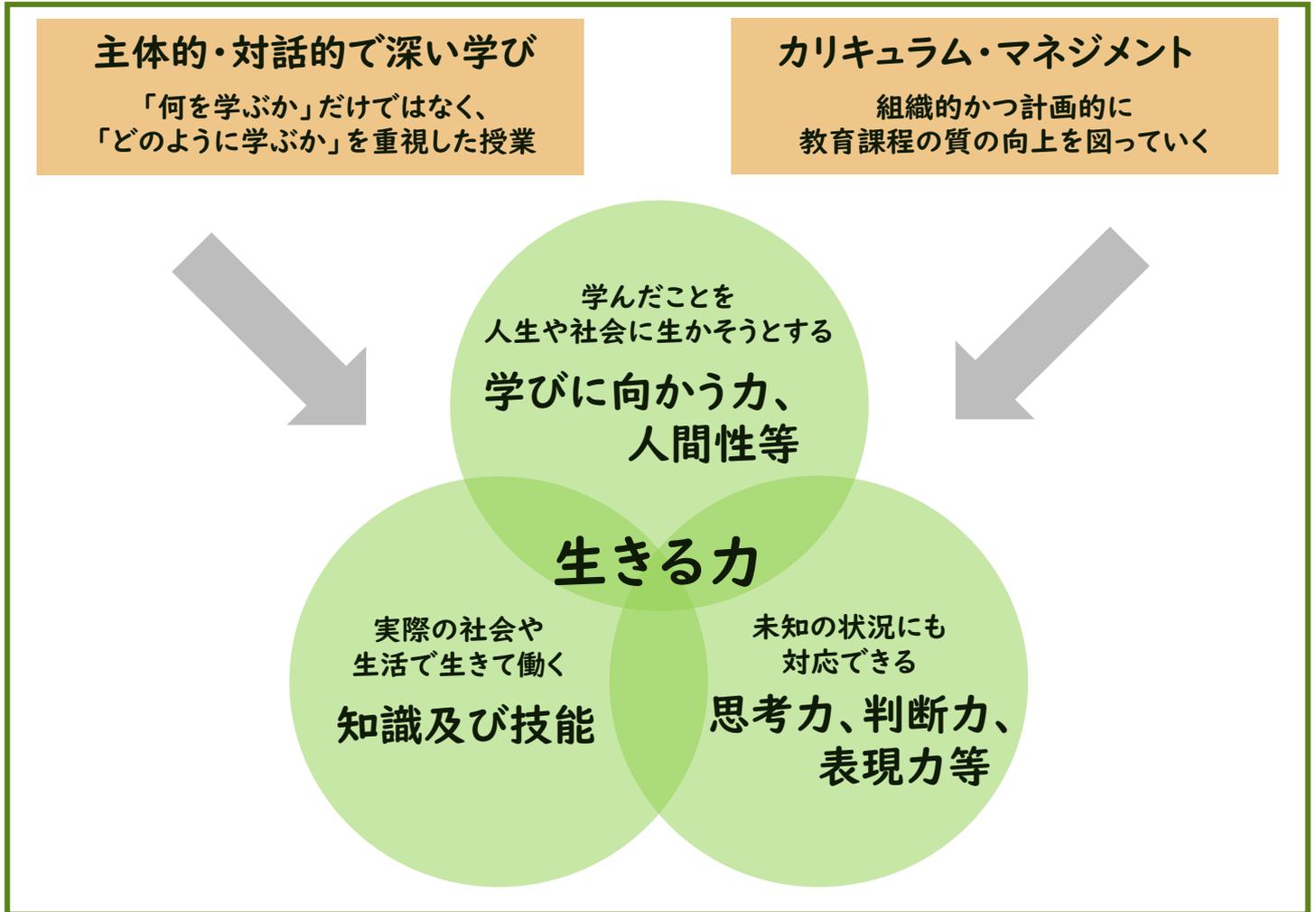
資質・能力の育成をめざすためのICT環境

iPad

セルラー通信

(1) これからの子どもたちに必要な資質・能力

学習指導要領では「生きる力」を育むために、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」と「カリキュラム・マネジメント」により、各教科等において、以下の3つの資質・能力を育成することが示されています。



あわせて、学習の基盤として、3つの資質・能力の育成が掲げられています。

言語能力

自分の思いを伝えたり、他者の思いを受け止めたりしながら、コミュニケーションをとるための重要な能力です。

情報活用能力

あらゆる出来事の中に、色々な情報があることを理解して、それらの情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを作ったりしていくための能力です。

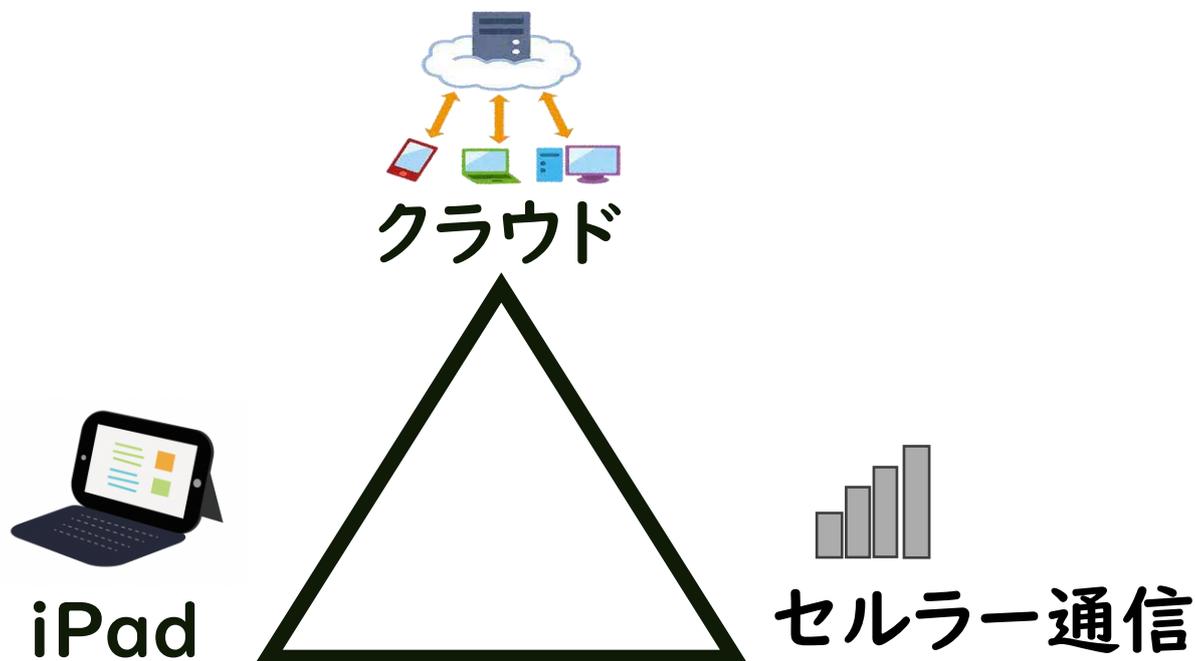
- コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得る力
- 情報を整理・比較する力
- 得た情報をわかりやすく発信・伝達する力
- 情報手段の基本的な操作の習得
- 情報モラル、情報セキュリティ など

問題発見・解決能力

物事の中から問題を見だし、PDCAサイクルを働かせながら、問題の発見・解決のための道筋をたてる能力です。

(2) セルラー通信でつながり続ける

1人1台端末を活用した子どもたちの学びが、通信環境の影響によって途切れることがないように、枚方市ではセルラーモデルを選びました。このことによって、1人1台端末と1人1アカウントを合わせることで、「いつでも」「どこでも」つながり続ける環境が整いました。



「いつでも」「どこでも」
つながり続けることが可能に!

家庭学習や校外学習でいつでもどこでもiPadが使えて、学校の授業とつながる!

交流学習でいつでもどこでもiPadが使えて、学校外の場所とつながる!

学習eポータルでいつでもどこでも先生や友だちとつながる!

学校の情報発信がいつでもどこでもできて、保護者や地域とつながる!

様々な環境にある児童・生徒といつでもどこでもつながる!

あなたなら、どのような「つながり」をイメージしますか。



(3) 枚方市が大切にする5つのCの視点

枚方市では、学習指導要領が示す、これからの子どもたちに必要な資質・能力を育成するために、Cから始まる5つの視点を大切にします。1人1台端末を活用し、5つのCの視点を意識し、「学びに向かう力、人間性等」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を身につけていきます。

Challenge

チャレンジ
挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

問題発見
問題解決



家庭学習
学習習慣

粘り強さ
積極性

Communication

コミュニケーション
意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

発表
プレゼン
テーション



遠隔授業
オンライン

対話
議論
意見交流

Collaboration

コラボレーション
協働

課題を解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考え方を持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

多様な
考えの尊重



連携
協働制作

Creativity

クリエイティビティ
創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイデアを表現します。また、アイデアを相手と共有することで、より深まりのあるアイデアを創り出します。

創造



表現
制作

アイデア
の共有

Critical thinking

クリティカルシンキング
思考・判断

物事を多面的な視点でとらえながら、調べた内容や相手の意見等の情報を正しく判断するために、その理由や事実と矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

吟味思考



情報分析
判断

Challenge

チャレンジ 挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

問題発見
問題解決



家庭学習
学習習慣

粘り強さ
積極性

例えば

社会の授業の後、みんな同じ課題を解いたり、宿題をするだけではなく、インターネット等を使って、授業中に疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことについて深く調べることにチャレンジすることができます。

総合的な学習の時間では、海外のNPOとオンラインでつながってインタビューや学校の取組を紹介する等前例のない新しい学びにチャレンジすることができます。

家庭科の授業では、食生活の題材で自分の生活の中にある課題を発見する場面で、iPadを使い撮影し、記録に残すことができます。また、課題解決のために実践をした後、写真を撮り比較することで、課題解決の道筋を振り返ることができます。



Communication

コミュニケーション 意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

発表
プレゼン
テーション



遠隔授業
オンライン

対話
議論
意見交流

例えば

英語の時間では、海外に住んでいるNETの友人や外国の中学校とビデオ会議システムでつながることにより、目的や場面、状況に応じた会話をを行うことができます。1つの課題に離れた場所から対話しながら一緒に取り組むこともできます。

体育・保健体育の時間では、自分の技を撮影して、ペアで動作を確認することにより、自分の動きを客観的に把握することができます。また、お互いの技の動画を見せ合い、話し合うことにより、お互いの動きを比較し、できていることや修正点の確認ができます。

国語の授業では、感想や意見の交流を行うときに、デジタルホワイトボード等を使うことで、お互いの考えをiPadを見ながら交流することができます。また、交流した意見は、モニターやスクリーンに映したり、自分のiPadで見ることができ、他人の考えと比べることで自分の考えを深めることができます。



Collaboration

コラボレーション 協働

課題を解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考えを持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

多様な
考えの尊重



連携
協働制作

例えば

社会の歴史の時間では、班でもっと深く学習したいことを設定し、自分たちで調べ、調べた内容を共同編集機能を使って、全員で1つのスライドを作ることができます。

総合的な学習の時間では、企業の方の話を聞きたいときに、ビデオ会議システムを用いることで、今まで行けなかった場所で働いている人たちから話を聞くことができますようになります。

体育・保健体育の時間では、ボール運動系のゲームや表現運動系の発表を撮影すると、個の動きや仲間との連携等を動画で振り返ることができます。それにより、新しい動き方の相談やお互いの動きをアドバイスする等して、活動の質を高めることができます。



Creativity

クリエイティビティ 創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイデアを表現します。また、アイデアを相手と共有することで、より深まりのあるアイデアを創り出します。

創造



表現
制作

アイデア
の共有

例えば

音楽の時間では、旋律作りをする時に、何度も繰り返し演奏して旋律を作ることが、楽器の演奏によっては難しい時もありましたが、iPad上で旋律作りをすることで、様々な楽器の旋律作りが簡単になります。また作った旋律の保存も簡単です。

総合的な学習の時間では、自分たちが学びたいSDGsのテーマを設定し、ビデオ会議システムを使い、離れた場所にいる人や会社等の話を聞くことができます。そして、生み出したアイデアをプレゼンテーションソフトや動画編集ソフトでわかりやすくまとめ、世界中の人に広く発信することができます。

国語の時間に読んだ物語の情景を、図工の時間に絵を描き、それをiPadに取り込みます。取り込んだ絵を背景に、音読の声を録音することで、子どもたちは物語の世界に入りきって豊かな表現ができます。



Critical thinking

クリティカルシンキング 思考・判断

物事を多面的な視点でとらえながら、調べた内容や相手の意見等の情報を正しく判断するために、その理由や事実と矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

吟味思考

情報分析
判断

例えば

理科の時間では、実験の様子を動画に撮影し何度も見返すことで、自分の考えを深めることができます。また、他の班の実験映像を見て考察することで、自分の考えを検証し、新たな気づきにつなげることもできます。

図画工作・美術の時間では、学んだことの振り返りをクラウドの中に保存しておくことで、単元や学年、小学校と中学校とのつながりを実感しながら学ぶことができます。また、自らの問題解決の課程を振り返ることもできます。

社会科や総合的な学習の時間に、デジタル副読本「わたしたちのまち枚方」を活用し、枚方市の地理や文化、歴史などを学びます。調べた内容を比較し、他者の考えを知り、議論することで、多面的・多角的に物事を捉え、自分の考えを整理し、考えることができるようになります。



コラム

GIGAフェスで生まれた「5C+1」

令和6年1月に開催した「GIGAフェス2023 in ひらかた万博」では、パネラーの小中学生が「5C (Challenge, Communication, Collaboration, Creativity, Critical thinking) にもう1つのCを付け加えるなら?」という質問に次のように答えました。

Curiosity: 好奇心 (色々なものに興味をもつ)、**Choice:** 選択 (自ら進んで選択する)

子どもたちが大切にしたい「もう1つのC」を聞いてみるのもよいかもしれません。

私たちが子どもたちと一緒に大切にしたい「C」を考えていきませんか。

あなたが考える「C」は何ですか?



参 考 資 料

教育の情報化に関する手引 (文部科学省)



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

StuDX Style (文部科学省)



<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

リーディングDXスクール (文部科学省)



<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>

(4) 授業と家庭学習のシームレスな学び

シームレスとは、「途切れない」「なめらかな」という意味です。枚方市の1人1台端末の特長である、「いつでも」「どこでも」オンラインにアクセスできる環境を活用し、授業が家庭学習へ、家庭学習が授業へとつながるシームレスな学びをめざします。

シームレスな学び(例①)



今日の授業を復習するため、デジタルドリル教材の〇〇をやっておいてください。



皆さんの結果を見ていると、△△を間違っている人が多かったです。そこをもう一度押さえてから、次の授業に入りましょう。

知識・技能の定着

学習履歴で教員が状況を把握できるので、授業の最初に、間違いが多かったポイントを押さえることから始められます。

問題を解いたら、すぐに自動採点してくれる！
間違った問題をもう一度やろう！



シームレスな学び(例②)



留学生に大阪の良いところを、英語でアピールするプレゼンを班で作ります。発表は〇月×日です。



みんないろいろ調べてきたね。それぞれの意見をプレゼンに取り入れよう。

続きは家でやろう。
追加で良い案があれば、共有ファイルに書き込んでいこう！



今まで授業でしかできなかった調べ学習や協働学習が家庭でもできるから、プレゼンの質が今までより上がりました。

協働学習

グループで協働して、プレゼンテーション資料や作品づくりをする時に、1人1台端末を使うことで家庭でも友だちと共同作業ができます。

iPadを使って、大阪の良いところを探してみよう。



あっ、〇〇さんが追加している！
思ったことをコメントしておこう。



△△さんのコメント、なるほどなあ。
少し考え方を変えてみよう！



シームレスな学び(例③)



短歌の空欄になっている部分、あなたならどんな言葉を入れますか。そう考えたわけも書いて、先生に提出しておいてください。



今日は皆さんが事前に提出してくれた言葉とわけをもとに、授業を始めます。

思考力・判断力・表現力の充実

家庭で時間をかけて考え、提出しておくことで、次の授業で余裕をもって授業を組み立てることができます。

余裕をもってじっくり考えられる！
先生に提出OK！



(5) 9年間で身につける力「Growing Map」

学校や家庭で1人1台端末を効果的に活用することで、小学校入学から中学校卒業までの間に、以下のような情報活用能力の育成をめざします。

これからの未来に必要な力を9年かけて身につけることができました。

友だちと役割を分担しながら資料を作成し、課題の解決策を発信することができた!

協働的に課題を解決することができる

プレゼンソフトを使いながら、自分の考えをまとめて伝えることができた!

自分の考えを効果的に伝えることができる

生成AIやインターネットの情報は正しいのだろうか。複数の情報を集めたり、人に聞いたりして、矛盾がないか確かめる大切さを知った!

物事を多面的な視点でとらえ、自ら考え、分析し、判断することができる

試行錯誤しながら、自分の考えを組み立てられた!

プログラミング的思考を身につける

学習支援ソフトを使って、家でも自分の課題に合わせた自主学習ができるようになった!

自分の力に合った課題を選び、自主学習ができる

友だちを嫌な気持ちにさせてしまった…守るべきルールがあることを知った!

ルールを守って1人1台端末を使うことができる

枚方 鳥

検索ワードを入れて、必要な情報が探せるようになった!

インターネットから情報を収集することができる

友だちの考えを知ったり、自分の考えを伝えることができるようになった!

友だちに伝え、学び合う楽しさを知る

9年間で身につける力

Growing Map

自分のiPadが配られたよ!

キーボードで文字が入力できるよ!

文字入力ができる

写真や動画が使えるようになったよ!

写真や動画を撮ることができる

(6) デジタル・シティズンシップ教育

家庭では、スマートフォンやパソコン等の広がりにより、デジタルは日常的な環境になってきました。しかし、今までの学校では、デジタル環境はパソコン室等限られた環境で使う非日常的なものでした。1人1台端末が貸与されることで、デジタルは鉛筆や筆箱のような文具と同じ日常的なものとなります。家庭でも学校でもデジタル機器が不可欠になった現在、子どもたちには、デジタル機器の良いところ、危険なところを理解し、主体的に活用することができるようになることが求められます。

ICT機器活用には3つの過程があるとされています

①導入期(わくわく期)

新しい機器が入って期待効果が高まる時期です。いずれは消失しますが、この時期を上手に行うことでスタートダッシュが簡単になります。

②挑戦期(やらかし期)

想定外の使い方をし、予期せぬ問題が発生する場合があります。一人ひとりの違いを理解し、寄り添った支援をすることでより活用が進みます。

③安定期(ぐんぐん期)

ICT機器を使うことが日常のものとなっていきます。普段の生活の中で工夫して使い方を広げていきます。活用の停滞等に注意が必要です。

1人1台端末になることで

子どもの可能性や
できることが
広がります。

情報社会という
公共のマナーを
学ぶ機会が
できます。

ネットトラブルは
機器のせいせず、
背景の要因を
とらえます。

ICT機器も
刃物と同じで
よい使い方を学ぶ
ことが大切です。

大事になることが

デジタル・シティズンシップ教育

です
「オンライン及びICTの利活用を前提」とし、その環境で安全かつ責任を持って「行動するための理由と方法」を主体的に学び、仕組みを理解するだけでなく「情報技術に関連する人的、文化的社会的諸問題を理解し、法的・倫理的にふるまう」ための「能力とスキル」を育成する教育。

具体的な学びの進め方

ICT機器の正しい使い方については・・・

- ・ 児童・生徒の試行錯誤、議論に任せる。
- ・ 教員は一人ひとりの進捗状況を巡回し把握する。
- ・ 児童・生徒の気づきを大切にする
- ・ 学習者が意見表明、説明することを呼びかける。
- ・ 児童・生徒の本音を引き出す、本音に共感する。
- ・ 個別・多様な捉え方があることを理解する。



長尾小学校・長尾中学校

汎用的ソフトウェアとクラウド環境を活用した深い学び

「リーディングDXスクール事業」は、文部科学省が指定した学校が、1人1台端末内の文書作成や表計算、プレゼンテーションなどを作成する一般的なソフトウェアとクラウド環境を活用して効果的な授業等を行い、その実践を校種を超えて普及させることで、全国の学校におけるGIGAスクール構想の加速化を図るものです。長尾小学校・長尾中学校が指定校として採択を受け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めました。

自ら学びを進めるための学習計画



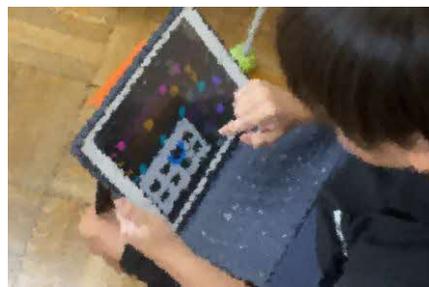
「Numbers」アプリケーションを活用し、学習計画表を作成。家庭科のエプロン制作実習過程の、参考動画リンクを張り付けることで、児童の進捗に合わせて、それぞれが作業の確認を行うことができます。また、進捗度をグラフ化することで、子ども一人ひとりの学習進度を把握することにつながります。



創造的な学び



「GarageBand」アプリケーションを活用し、いろいろな打楽器の音色を聴き比べ、オリジナルのリズムをつくることに主体的に取り組みました。お互いにつくったリズムの聴き合いをし、音楽づくりを楽しむことができました。



学習の振り返りと自己分析



「スクールワーク」・「Numbers」アプリケーションを活用し、振り返りシートを作成。児童・生徒に入力させると同時に、レーダーチャートグラフをシートに掲載。児童・生徒が、レーダーチャートと入力した振り返りを見て、単元内の得意と苦手が一目で把握し、自らの学習に活かすことができました。



生徒からのフィードバックや共有の簡略化



体育科で各グループが創作したダンスを発表しました。各グループのダンス発表を見たのち、先生が作成した評価シートをMicrosoft Formsを活用し、収集します。頻出するキーワードや生徒からのフィードバックを瞬時に共有することができます。



ポイント

「クラウド環境を活用した協働的な学び」

クラウド環境を活用することで、複数の児童・生徒が同時に同じ資料を編集したり、コメントを付けたりでき、協働的な学びがより深まります。

ICT機器を使うことが習慣化し、将来の子どもたちが実社会で必要とされる情報活用能力を高めることにつながりました！

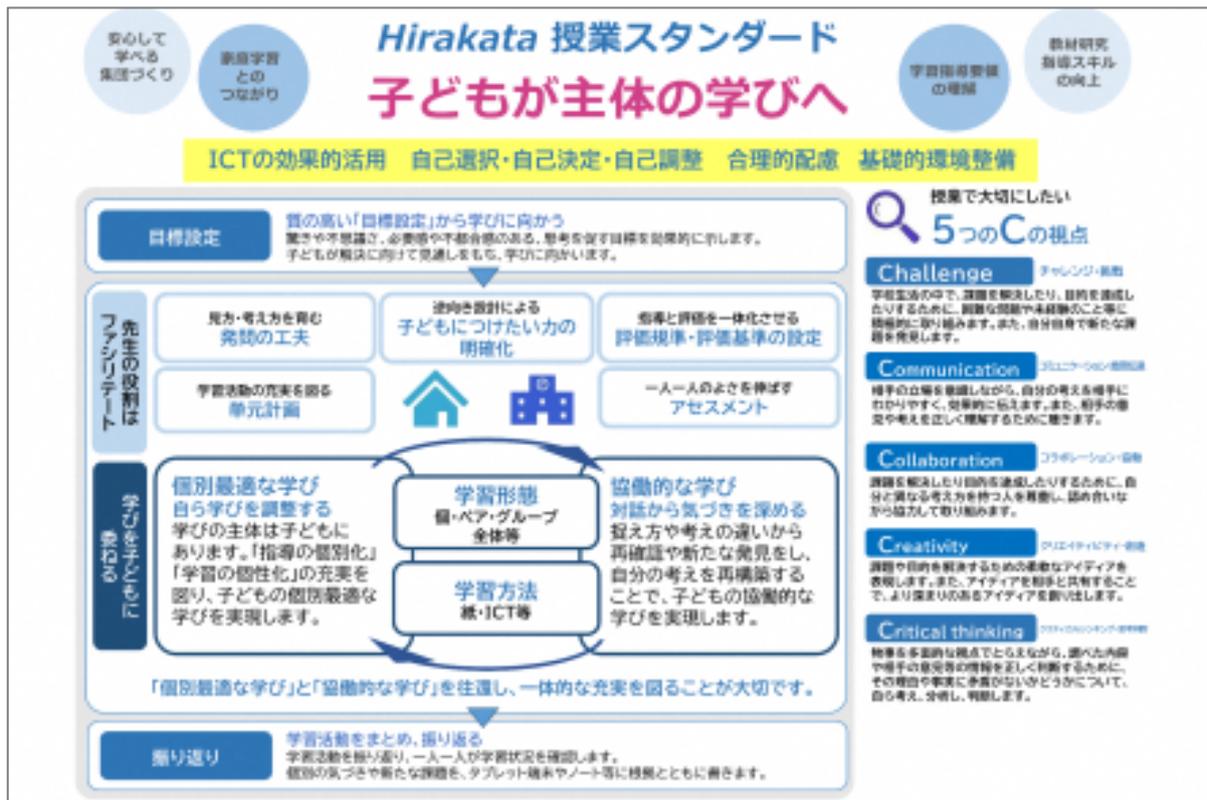
子どもたちが主体的に学ぶためのICTの効果的活用とは？



(1) 授業改善・家庭学習

Hirakata授業スタンダードと5C

子どもが主体となった多様な学び方が求められる中で、授業の在り方を見直し、Hirakata授業スタンダードを改定しました。ICTを文房具の1つとして効果的に活用することや子どもが自ら選択・決定・調整すること、合理的配慮、基礎的環境整備といった支援教育の観点などをキーワードとして入れています。これまで枚方版ICT教育モデルの中で示してきた授業計画時に大切にしたい5つのCの視点と合わせて、子どもが主体の学びの実現をめざします。



(1) 授業改善・家庭学習

様々な場面で、授業や家庭学習が変わります。

1人1台端末を活用することで、今までにはできなかったような学習が可能となり、新しい学習を通して、子どもたちの様々な資質・能力の育成が期待できます。

授業編

いつでも調べ学習が可能!



分からないことや気になることがあっても、いつでもインターネット検索することができます。

自分の音声や動きを撮って、自己評価!



自分の発音や朗読、演奏や運動の様子を動画で記録・再生し、自己評価をしながらスキルの向上ができます。

だれとでも共有や比較が簡単に!



学級内で複数の意見や考え等を共有したり、比較・整理することができます。

みんなでつくりあげる!



それぞれのタブレット端末を使いながらグループで分担したり、協働で作業したりして、作品を制作することができます。

オンラインによる交流学习の充実!



遠隔地の学校等との交流により、学校の壁を越えた学習が充実します。

さらに!



セルラー通信だから、校外学習等に持っていき、「いつでも」「どこでも」1人1台端末が使えます。

家庭学習編

デジタルドリル学習で知識・技能の定着!



自分の課題や興味に合わせて問題を選ぶことができ、自分のペースで知識・技能の定着を図ることができます。

次の授業に向けて家庭でじっくり考える!



次の授業の中心となる課題について、家庭でじっくり考え、オンライン上で事前に提出することができます。

子どもの学びを絶やさない!



学校が臨時休業となった場合でも、双方向のオンライン授業や、オンライン家庭学習が可能となり、子どもたちが学び続けることができます。

友だちとの協働による学習も可能!



オンラインによる共同編集機能を活用することで、それぞれの家にいながらも、一緒に学習することができます。

1人1台端末を効果的に活用することで、じっくり考える時間や友だちと交流する時間、協働する時間等を増やすことができ、「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」をより効果的に実現できるようになります。

ポイント こう変えることによって

「授業の時間の使い方が大きく変わります」「個別最適な学びが充実します」

- じっくり考える時間や、協働する時間等を増やすことができ、「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことができます。
- 授業と家庭学習がシームレスにつながり、授業を「教室だからこそできること」に焦点化することで、「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことができます。
- 学習支援ソフトやインターネット等を効果的に活用することで、教員が個に応じた課題を与えたり、子ども自身が自らの興味・関心に応じた学習を進めることで「個別最適な学び」につなげていくことができます。

ポイント これだけは気をつけよう！

1人1台端末を「使う」こと自体が「目的」にならないように。

- 1人1台端末を単に「使うだけ」では、授業は深まりません。「なぜ?」「本当にそう?」「不思議!」「友だちの意見を聞いてみたい!」「もっと上手になりたい!」…こういった子どもたちの「?」や「!」を大切にしたい、質の高い学習課題の提示が効果的な活用の鍵となります。
- 特に小学校低学年では、実際に見たり、触れたりすることで感性が育まれたり、具体的な操作活動によって学習の理解が深まります。発達段階に応じて、実体験でこそ学べること、1人1台端末で学べることを上手く使い分けることが大切です。
- 1人1台端末を効果的に活用しながら、子どもたち自ら計画的に家庭学習に取り組めるように、校内で共通理解を図ることが大切です。
- 上記の内容を踏まえ、単元や内容のまとめ、1単位時間の中でICTを「いつ」「何のために」活用するかをデザインすることが大切です。

文部科学省の資料も参考に!



StuDX Styleの中で、各教科等における学習場面でのICT活用の事例が紹介されています。あわせてご参照ください。



あなたなら、どのように授業や家庭学習を変えますか?



(2) 全国学力・学習状況調査から

毎年4月に、小学校第6学年、中学校第3学年を対象とした全国学力・学習状況調査が実施されています。この調査で問われている力は、OECD（経済協力開発機構）が15歳を対象に3年ごとに実施している学習到達調査、PISA（読解力）で問われている力と共通していることが多く、以下のような傾向が見られます。これらの力は、子どもたちがこれからの予測困難な時代の中でも、自らの可能性を最大限に発揮し、主体的によりよい社会の創り手となり、幸せに生活するために必要な力と考えることができ、**世界的に求められている力**と言えます。

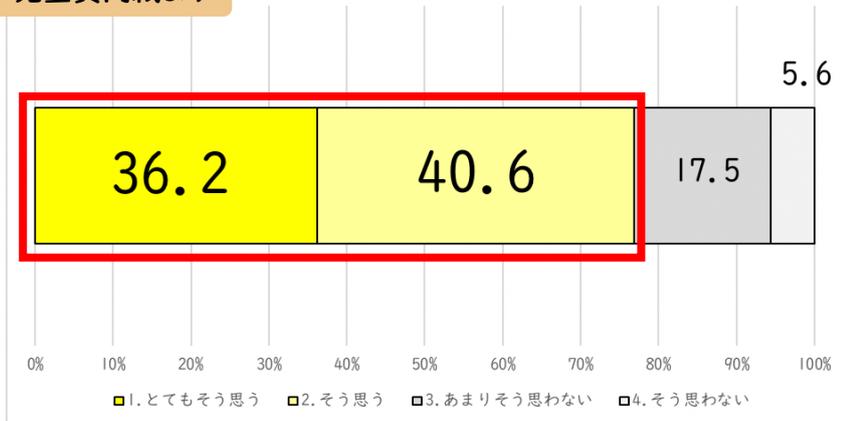
PISAと全国学力・学習状況調査で共通して問われている力

- ・自分の考えを根拠を示して説明する力
- ・あらゆる種類の文章や図表等の中から必要な情報を探し出す力
- ・テキストの質と信ぴょう性を評価しながら読む力
- ・目的に応じた書き方・聞き方・話し方の意図や効果を考え、表現する力

文部科学省HP「読解力向上プログラム(たたき台)」等参考

児童・生徒質問紙と学力結果の相関関係

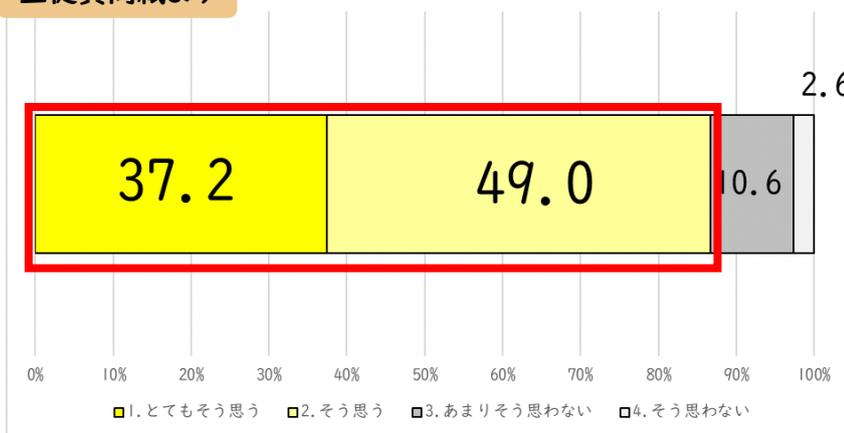
児童質問紙より



相関関係とは、2つのものがどれくらい関係しているかを表す言葉です。例えば、「気温が上がるほど、アイスの売り上げも増える」場合、この2つには、正（プラス）の相関が見られます。逆に、片方が増えると、もう片方が減る場合は、負（マイナス）の相関が見られます。

「あなたは、自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。」に対して、肯定的な回答が多いほど、枚方市立小学校の児童の学力調査（令和7年度）との正の相関関係が見られました。

生徒質問紙より



「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。」に対して、肯定的な回答が多いほど、枚方市立中学校生徒の学力調査（令和7年度）との正の相関関係が見られました。

それでは、授業の中で1人1台端末をどのように活用したらよいのでしょうか。

国立教育政策研究所の報告書において、以下の内容が分析結果として報告されています。

- ・児童・生徒のICT機器を使用する頻度と各教科の正答率との間に、一定の関係が見られる。
- ・ICT機器を活用することができると考えている児童・生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られる。
- ・ICT機器を活用する自信がある児童・生徒ほど、探究的な学びに取り組んだと回答している傾向が見られる。また、ICT機器を活用する自信がある児童・生徒ほど各教科で自分の考えを工夫してまとめたり発表したりする活動に取り組んでいた傾向が見られる。

(3) 子ども支援・家庭連携

ICTを効果的に活用することで、配慮を要するさまざまな児童・生徒にも、一人ひとりに個別最適な支援の実現が可能となります。また、学校から保護者や地域への情報発信も、よりスムーズに行うことができます。

気持ちの見える化!



オンライン相談の充実!



視線入力装置で文字入力が簡単に!



ブログによる情報発信!



ポイント こう変えることによって

「子ども一人ひとりに応じた支援・指導の充実」「学校の情報発信力の向上」

- 「オンラインによる面談」「長期欠席、不登校児童・生徒へのさらなる対応」ができます。
- コミュニケーション支援・活動支援・時間支援等で活用できます。
- 「オンラインによる相談」「ブログによる情報発信の充実」「学校だより・学級通信等の配信」ができます。

ポイント ここだけは気をつけよう!

- 子ども一人ひとりに応じた支援・指導を。
- 支援・指導のユニバーサルデザイン(UD)化を。

これまでと変わらない大切な考え方、取組ですね!

すべての子どもたちが、安全・安心に、そして、自己肯定感・自己有用感を高めるための支援・指導を考えてみましょう!





iPadのアクセシビリティ

障害の有無に関わらず、全ての児童・生徒の教育を充実させるためにICT機器の活用は非常に大切になります。また、発達障害等によって学習に困難を抱える子どもたちの可能性を高める手段として、ICT機器を効果的に活用した実践に期待が寄せられています。

iPadは多くのアクセシビリティ機能が備えられており、視覚、身体の動き、及び学習上のニーズに配慮がされています。

Voice Over (読み上げ機能)

音声支援

字を読むことが苦手な子どもには、Voice Overを設定することで、タップした部分をiPadが読み上げてくれます。文字だけでなく写真もどんな写真か、iPadが言葉で説明してくれます。

「設定」⇒「アクセシビリティ」⇒「Voice Over」で設定するか、Siriに「Voice Over オン!」と言うことで設定ができます。

Safariのリーダー機能

視覚支援

Safariを使って調べ学習等をしたときに、たくさん出る広告や写真等のせいで集中できない子どもたちはいませんか。そういった子どもたちにはリーダー機能を設定し、読みたいところだけに集中させてあげてください。

検索バー左の「ああ」をタップ



Safariの辞書機能

学習支援

Webページを閲覧中に出てきたわからない言葉を選択して、「調べる」や「辞書」を選ぶと、言葉の意味をすぐに調べることができます。漢字が苦手な子どもでも、すぐに自分で調べることができます。

選択項目の読み上げ

音声支援

Voice Overを設定しなくても、テキストの中で選択した部分をiPadが読み上げてくれます。

第7回日本ICT教育アワードについて

公開日:2025/01/24 更新日:2025/01/24 教育研修課

コピー 選択部分を検索 調べる 翻訳 Webを検索 ユーザ辞書... 読み上げ >

1月17日、全国ICT教育首長協議会が主催する、「第7回日本ICT教育アワード」が東京の浜松町で開催されました。このアワードは、積極的に教育ICT環境整備に取り組み、地域創生や学校活性化につながる優れた事例を顕彰するコンテストです。

本市は、多数の受賞となりました。これで3年連続の受賞となりました。

当日は、市長に代わり副教育長が出席をし、穂坂デジタル副大臣から表彰を受けるとともに、午前と午後の2回にわた

単語を選択すると「調べる」「読み上げ」機能が出ます

Assistive Touch

操作支援

Assistive Touch機能により、画面をタッチすることやボタンを押すことが困難な場合もiPadを活用することができます。この機能を設定することで簡単なタップで様々なアクションを行うことができます。

「設定」⇒「アクセシビリティ」
⇒「AssistiveTouch」で設定

文部科学省の資料も参考に 【発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック】

特別支援
学級編



通級指導
教室編



通常の学級編



(4) 働き方改革・業務改善

教職員の事務作業を、ICTを活用して効率化することで、先生が児童・生徒一人ひとりとかかわる時間や教材研究・授業準備の時間を生み出すことができます。



※教職員の勤務は8:30から

職員室で欠席連絡対応・伝達



出勤した途端、欠席連絡の対応。朝はすることがたくさん!余裕がない・・・

➔

1人1台端末で、欠席連絡の確認。
余裕を持って、児童・生徒を教室で迎えられる。



朝から余裕を持って、子どもたちを迎えられます。



職員朝礼で情報共有



先生が来るまで、朝の学習を頑張ろう!

➔

1人1台端末で情報共有



朝の学習から先生と一緒に!

ポイント こう変えることによって

「教育活動の質の向上につながります」「保護者の負担が減ります」

- 朝、欠席連絡等（電話対応）をしていた時間を子どもたちとの時間や授業準備の時間にあてるようになります。
- 連絡帳を近所の友だちに預けたり、朝から学校に電話したりすることなく、スマートフォン等で連絡可能（欠席や健康管理について）になります。

ポイント ここだけは気をつけよう!

- 子どもたちの育ちにとって大切なことについては、会議等でしっかりと話し合う必要があります。

これまでと変わらない大切なことですね!

どのような業務改善をすれば、今以上に子どもたちとの時間を創出できるか、考えてみましょう!



業務改善×ICT 活用事例

デジタルドリル

問題演習にデジタルドリルを活用することで採点の時間を短縮。成績や履歴も収集できるので、子どもごとの理解度の確認にも利用可能。



教材や宿題作成の
時間短縮

学習支援ソフト

- ワークシートの作成
⇒シンキングツールの活用
- 提出箱の活用
⇒宿題の提出(例:鍵盤ハーモニカ)
- 作品(図工の作品の写真等)の提出
⇒学習評価の材料として
- カメラ機能
⇒黒板の写真(授業の記録として)
⇒連絡帳
- 共有ノート
⇒協働学習

ワークシート作成や
印刷の時間短縮



NHK ONE for School

- 番組 2900以上の番組を配信
- 動画クリップ 約8000本
- ものすごい図鑑 360度方向から昆虫を観察できる
デジタル図鑑

[どう使う?]

- ⇒授業のはじめ・中・おわりで
 - ・実験や観察の方法、歴史の社会背景等を確認
 - ・他事例をクリップで確認、学びの深化に
- ⇒家庭学習で
 - ・予習、復習に
- ⇒自学自習で
 - ・興味・関心のある探究活動に

教材や宿題作成
の時間短縮



まなびポケット①

- 連絡帳を投稿
- 学級通信を配信
- 手紙の配付

事前に予約投稿
印刷不要
配付時間の短縮
学年で共有
カラーで投稿

まなびポケット②

- 朝礼をまなびポケットで
 - ・ストリームに連絡事項を投稿
 - ・「予定を設定」で配信日時を設定



Microsoftアプリケーション



- 校務で生成AI活用(Microsoft Copilot)
- 保護者アンケート(Microsoft Forms)
- 土曜授業、オープンスクールの感想
(Microsoft Forms)
- 個人懇談、
家庭訪問日程調整
(Microsoft Forms)
- 教職員の調整事項
(Microsoft Teams・Forms・Excel)

配付時間短縮
自動集約
共同編集(同時に見られる)
どこからでも確認編集可能

ポータルサイトを活用した情報発信!

GiGAスク!ひらかた

枚方市のICT教育に関わる情報を、情報教育ポータルサイト「GiGAスク!ひらかた」で随時発信しています。

- 1人1台端末活用状況
- 生成AI
- ICT活用のヒント
- ICT活用実践事例集
- 働き方改革関連資料



まなViVA!ひらかた

教職員を対象にした各課からの情報を、ポータルサイト「まなViVA!ひらかた」で随時発信しています。

- 教職員研修動画
- 研修予定・シラバス、冊子
- 研究校・推進校の実践資料
- 支援教育ポータルサイト
- 生徒支援ポータルサイト



「まなViVA!ひらかた」へは、枚方市教職員のみアクセスできます。

(5) 1人1台端末と健康

1人1台端末等ICT機器を活用するときは、児童・生徒の健康面に配慮することも大切です。以下のことに注意して、家庭とも連携し、上手に1人1台端末を活用しましょう。

教室での配慮事項

【参考サイト】

文部科学省作成「児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック(令和4年3月改訂版)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/20220329-mxt_kouhou02-1.pdf

目の疲労の軽減のために

- ・ 照明の明るさの調整
- ・ 画面の反射や映り込みの防止
- ・ 教材文字の見やすさへの配慮
- ・ 30分に1回は画面から目をはなして、20秒以上、目を休めるような指導

よい姿勢を保つために

- ・ タブレット画面を目から30cm以上離すように指導
- ・ 授業の中で、発表等、体を動かす機会を設けるような工夫
- ・ 机上の整理整頓を指導

児童・生徒との1人1台端末を使うときの5つの約束

①タブレットを使うときは姿勢をよくしよう

- ・ タブレットを見るときは、目から**30cm以上**はなして見よう。



②30分に1回はタブレットから目をはなそう

- ・ 30分に1回はタブレットの画面から目をはなして、**20秒以上**、遠くを見よう。



③ねる前はタブレットを使わないようにしましょう

- ・ ぐっすりねるために、**ねる1時間前**からはデジタル機器を使わないようにしましょう。



④自分の目を大切にしよう

- ・ 時間を決めて遠くを見たり、目がかわかないようにまばたきをしたりして、自分の目を大切にしよう。



⑤ルールを守って使おう

- ・ **30分使ったら1回休む**、学校のタブレットは勉強に関係のないことに使わない等、学校やおうちのルールを守って使おう。



【その他参考サイト】

文部科学省 児童生徒の近視実態調査結果・啓発資料掲載サイト https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2024/attach/mext_01403.html

日本眼科医会 子どもの目・啓発コンテンツ <https://www.gankaikai.or.jp/children/index.html>

※保護者の方へも、学校とともに、端末の使用時の健康面への指導や、児童・生徒がインターネット上の犯罪等の被害者や加害者にならないように指導する等、協力していただくことが大切です。

【参考サイト】

文部科学省作成「端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレットについて」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00001.html

【実践事例】

養護教諭から目と姿勢に関するメッセージ

授業中はもちろん、保健だよりや保健室前の掲示板を通じて、目の疲労軽減や姿勢に関する情報を発信します。保健の先生から児童・生徒へ、ためになる情報がたくさん！

樟葉西小学校と楠葉西中学校の取組

良い姿勢で授業をうけましょう！

教室で授業を受けているとき、みなさんは「自分の姿勢」を意識したことはありますか？先生は朝みんなの教室を見てまわっているのですが、みんなが気がちな姿勢があることを発見しました！突然ですが、ランキングです！

くす西小姿勢ランキング！

あなたのいつもの姿勢は何番ですか？

- 1** 机の横棒に足を乗せがち
- 2** 足の裏が床についでいない
- 3** 机とイスが離れている

足裏がふよふよ浮いているから、膝ものびきって姿勢がふにやりと崩れやすくなっているよ。足裏を床につけるだけでも不思議！授業の終わりできれいな姿勢のままだ！

足首をクロスさせたり、つま先だけを床に着けたら...あっちこっち動いて足裏が落ち着かない!! そんなときは足裏全体を床につけてみよう！足だけでなく心も落ち着いて授業の集中力がアップするよ！

低学年に多かった姿勢が①！授業を受けるための良い姿勢について知ろう！今日から座るときはイスをいつもより前に動かしてみよう、自分の中のいい変化にすぐに気づくはず！

良い姿勢にもなる魔法の合言葉

- グー** 机イスと体のきよりは前と後ろにこぶし1個分！
- ペグ** 足裏全体を床につける
- ピン** 背筋をのばし、重い頭を全身を使って支えよう！

枚方市立樟葉西小学校

どうして目は2つあるのかな？

みなさんは、「目はどうして2つあるんだろう」と不思議に思ったことはありませんか？目は、片方だけで物を見ると距離感や立体感がわかりづらくなります。そのため、物の形や微妙な距離感、立体感をつかむために目は2つあるのです。実験して、確かめてみましょう。

実験1 鉛筆を1本、目の前にかざして右目と左目で交互に見てみましょう。

実験2 両目を片目だけ開いて同じように見ながら、右手と左手の位置を交互に変えてみましょう。

一見える景色が少し違って、右目と左目で見ると景色は合っているように見えます。片目だけでは距離感がとりにくくなります。両目で見ると距離感がとれます。

目のクイズに挑戦してみよう

つぎの問題に①～③で答えてみましょう！

問題I 右目が1.0未満の人は、めがねをかけることが多くあります。小学生では平均して1.0未満の人は、どのくらいいるでしょう。

- ① 約30%
- ② 約50%
- ③ 約60%

正解 小学生は平均31%、中学生は54%、高校生は65%です。

問題II ドライアイ（目が乾きにくくなる）になる原因の1つに、まばたきの減少があります。普段のまばたきの回数はどのくらいあるでしょう。

- ① 3～6回
- ② 7～15回
- ③ 16～20回

正解 普段は3～6秒で1回まばたきをしています。

問題III スマホやゲームから目を離すのが難しい理由は何でしょうか。

- ① 音が鳴る
- ② 画面が動く
- ③ 画面が明るくなる
- ④ 画面が熱くなる
- ⑤ 画面が冷くなる

正解 スマホやゲームを遊んでいるときは、音が鳴る、画面が動く、画面が明るくなる、画面が熱くなる、画面が冷くなるなど、いろいろな刺激が受けやすいためです。

問題IV スマホやゲームを遊んでいるときは、まばたきの回数は普段の何割程度減りますか。

- ① 約50%
- ② 約60%
- ③ 約70%

正解 スマホやゲームを遊んでいるときは、まばたきの回数は普段の約50%程度減ります。

枚方市立楠葉西中学校

良い姿勢で授業を受けよう

目と姿勢の関係

自分の体操

首・肩の体操

ポイント

タブレットの使いすぎや画面に近づきすぎで、目や姿勢に負担をかけていませんか？30分ごとに休憩したり、遠くを見たりストレッチをしたりするなど、日頃からの習慣が大切です。

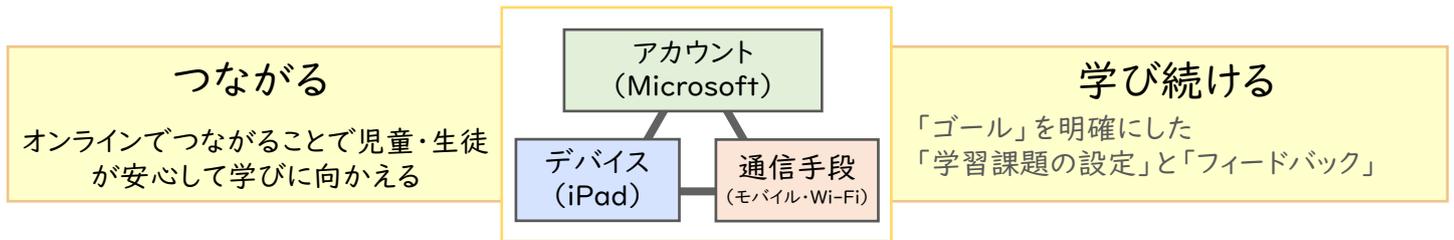
目の疲労軽減、良い姿勢を保つために、...

タブレットの使いすぎや画面に近づきすぎで、目や姿勢に負担をかけていませんか？30分ごとに休憩したり、遠くを見たりストレッチをしたりするなど、日頃からの習慣が大切です。

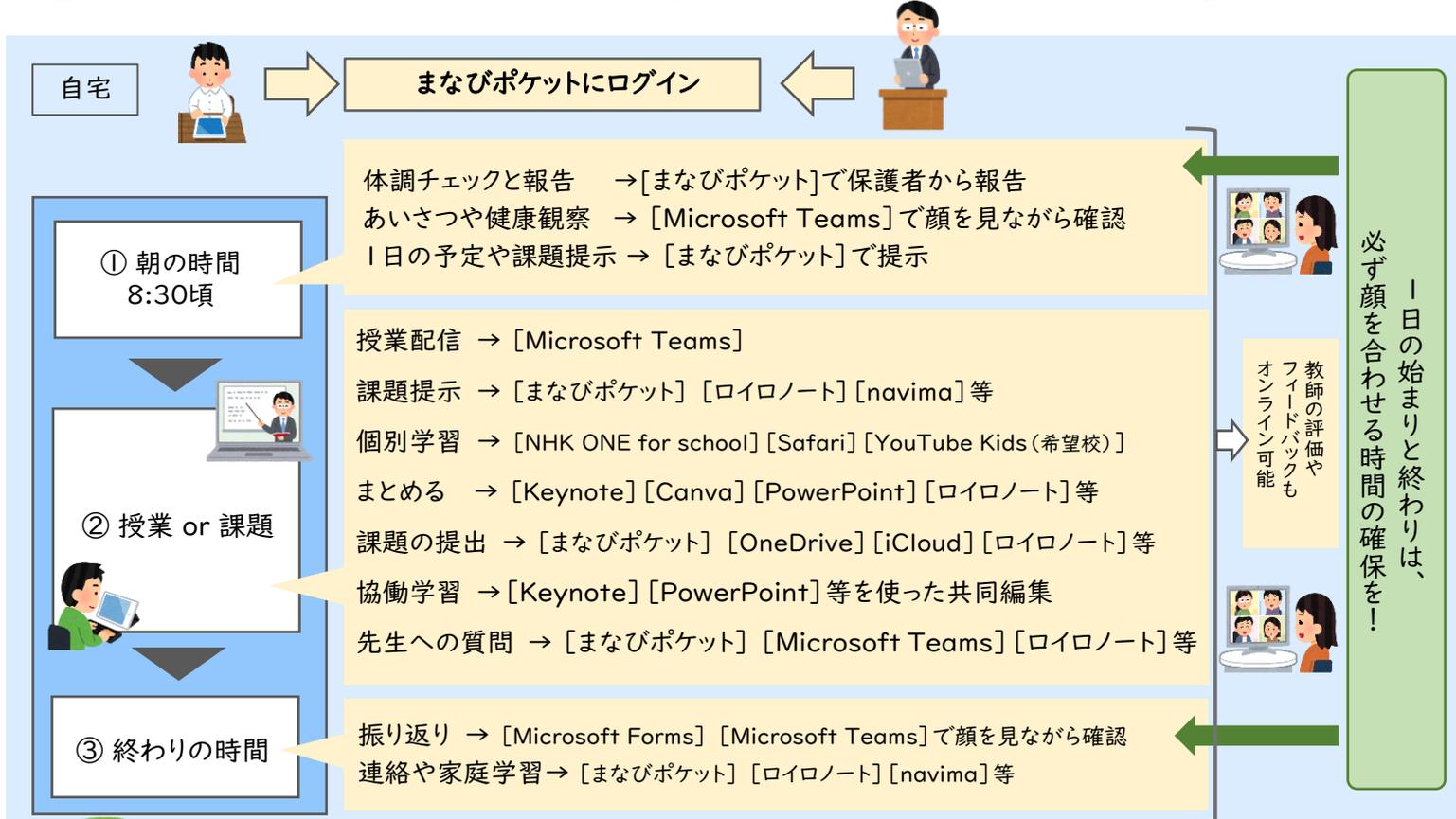
(6) 学校に登校できない児童・生徒の学習指導

児童・生徒の学びを止めないための取組として、ICTを効果的に活用することで、対応の選択肢が広がりました。例えば、ビデオ会議システムを活用することで、児童・生徒の健康観察や指導計画等を踏まえた教職員による学習指導と学習状況の把握を行うことができます。そうした対応を急に実施することは難しいため、平常時から非常時を想定した備えをすることが大切です。

【非常時における1人1台端末活用の目的】



【非常時の1人1台端末を活用した1日の学習のながれ】



ポイント 平常時から非常時を想定した備えが大切

一定の期間、児童・生徒がやむを得ず学校に登校できない事態はいつ起きるかわかりません。そうした対応を急に実施することは難しいため、平常時から非常時を想定した備えをすることが大切です。

やむを得ず学校に登校できない児童・生徒の学びを止めないための工夫は、学校によって異なりますが、子どもが安心して学びに向かえるように「つながる」取組は共通しています。

(7) 生成AI「も」学びのパートナー

教育活動における生成AIの活用は、現在まさに黎明期にあります。令和6年12月に「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver.2.0)」が示され、学校現場での適切な利活用に向けた基本的な考え方や留意点が整理されました。

生成AIは学びを支える有用な道具になり得る一方、出力はあくまでも参考であり、必ずしも正しいとは限りません。生成AIを使うこと自体を目的にするのではなく、学習のねらいに照らして効果的かを吟味し、最後は人が判断して責任をもつという姿勢を大切にしながら、使い方と注意点を学んでいきます。

枚方市立第二中学校 生徒が生成AIを活用して学びを深める

Step1 生成AI自体を学ぶ段階

生成AIがどのような仕組みで動いているか、得意なこと・苦手なこと、誤りを含むことがあること(例:もっともらしい誤情報)など、性質と限界を学びます。発達段階に応じて、児童・生徒が直接利用する、あえに、教職員による対話例の提示などを通して、生成AIに対する冷静な態度を育みます。

Step2 使い方を学ぶ段階

より良い回答を引き出すためのAIとの対話スキル、プロンプト(指示文)を学びます。出力はう呑みにせず、複数の情報源で確かめるなどファクトチェックを習慣化します。

Step3 各教科等の学びにおいて「積極的に」と「効果的に」使う段階

問題を発見し、課題を設定する場面、自分の考えを形成する場面、異なる考えを整理したり、比較したり、深めたりする場面での生成AIの活用を学びます。

子どもの実態に応じて、Step2と3を行き来したり、Step1をより深めたりします。

Step4 日常使いする段階

必要に応じて日常的に活用できるようにしつつ、生成AIの出力は「参考の一つ」であり、最終判断は人が行うことを徹底します。



文部科学省
令和6年12月26日「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver.2.0)」



文部科学省
学校現場における生成AIの利用について

ポイント

生成AIに聞いてみた!

「子どもたちにとって、生成AIを学ぶことは大切ですか？」

(回答)

はい、AIについて学ぶことは、未来の社会を生き抜くための大切なスキルの一つです。AIの仕組みを理解し、それをうまく使いこなせるようになると、多くの分野で役立ちます。しかし、それを使う際には倫理的な視点を持ち、情報の正確さを常に確認することが必要です。これからの時代において、AIは強力なツールですが、それを扱うのは最終的には人間です。だからこそ、AIについて学び、賢く使いこなすことが重要なのです。

意見の一つとして聞いてみよう!

なるほど、生成AI「も」学びのパートナーとなるため、
どのような場面で使うことが望ましいでしょう?



第二中学校 生徒が生成AIを使いこなす！



第二中学校では、生成AIを活用した学びを深めるために、色々な取組を行ってきました。

①生成AI自体を学ぶ場面

子どもたちは、生成AIの仕組み、利便性・リスク、留意点を授業で学びます。生徒自身が、活用注意点を作成しました。



②使い方を学ぶ場面

授業や家庭学習等様々な場面において、生成AIを活用した生徒の活用例をMicrosoft Formsで収集。担当教員が、AI通信を発行し、活用例やハルシネーション例を共有しました。

○事前授業の流れを受けて、狙いと数値目標と具体的方策を生徒と共有

生徒に「ジブゴト」の認識

学校の目標と生徒A1	達成率	達成率	達成率
1. 生成AIの活用による学習の効率化	47.0	36.5	16.5
2. 生成AIを活用した学習の楽しさ	47.0	28.4	23.9
3. 生成AIを活用した学習の成果	36.3	40.8	22.9
4. 生成AIを活用した学習の活用	32.7	44.4	22.7
5. 生成AIを活用した学習の活用	34.4	46.1	19.6
6. 生成AIを活用した学習の活用	38.9	39.4	22.6
7. 生成AIを活用した学習の活用	36.0	34.4	29.4
8. 生成AIを活用した学習の活用	35.1	29.4	40.7

3. 具体的な進め方とみんなのミッション

【ルーブリック】(目標)

【5】 未来・将来・実社会に関連付けたクリエイティブな活用ができた

【A】 スクショした際のAI活用で、自身のどのような部分が成長できたか説明できる

【8】 週に1回以上のスクショ送付ができた

初期のプロンプトには一問一答や、ぶっきらぼうなお問い合わせが目立ったり、それも影響してか、ハルシネーションが目立ったり、使用生徒が望む回答が返ってこなかったりなど、通信にはしばしば不満が寄せられた。

通信を通して、情報の発信・共有を続けることと写真のように写真をアップして作業をお願いするような工夫が見られたり、AIと会話を続けることで学びを深めたりするようになってきた。

③各教科の学びにおいて積極的に用いる場面

問題を発見し、課題を設定する場面、自分の考えを形成する場面、異なる考えを整理したり、比較したり、深めたりする場面等の各場面を意識した実践！



社会科「日本の諸地域 北海道地方」
北海道地方の農業・観光の課題を整理し、生成AIで立場や根拠を深め、単元課題のディベートに向け、自分の考えをまとめる授業で活用。生成AIとの対話を通して、生徒は自らの立場や考えを明確化し、事実と意見を区別して論を組み立てられるようになりました。生成AIはあくまでも生徒の学びを支援するためのツールとして位置づけられていました。

英語科「Being Fair」
生徒が自分の大切なものや人を英語で紹介するため、生成AIを活用して自身が考えた英文をより分かりやすく整え、想定される質問とその回答を考える授業。生成AIに質問してもらい、その回答を生徒が考える個別最適な学習が可能となりました。



ポイント

生成AIパイロット校とは？

生成AIが急速に社会に普及する中、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」を踏まえた学校現場における利活用の実践事例を創出し、その成果・課題の検証をするとともに、好事例の普及・展開を図ることを目的とした事業である。令和7年度は全国で147の学校が採択されているが、第二中学校と同じく「教育利用」での採択は43校だけである。

教職員が生成AIを校務で使いこなす!

枚方市立小中学校10校の教職員約270名が、生成AIを校務で活用し、事務作業の負担軽減や業務の効率化の可能性を検証しました。

校務生成AI実証事業の
取組はこちら



Step1 ビジョン・スケジュールの共有

実証事業の目的やスケジュールを明確に示し、興味関心のある学校と一緒に役半年間の実証事業が始まりました。

Step2 現状把握と成果物の設定

教職員の生成AIの活用状況を把握するために、アンケート調査を実施しました。また、100の実践事例創出を目標に、色々な場面での活用を促しました。

Step3 とにかく使ってみる!そして、実践をみんなで共有する

各校で校内研修を実施し、操作方法や具体的な活用場面を考えました。チャットで実証校の教職員・教育委員会・民間企業がつながり、日常的な情報共有を行いました。月1回程度、オンラインで実践報告会を行い、各校の実践を共有しました。



Step4 実践事例集の創出と効果検証

各校で校内研修を実施し、操作チャットで実証校の教職員・教育委員会・民間企業がつながり、日常的な情報共有を行いました。作方法や具体的な活用場面を考えました。月1回程度、オンラインで実践報告会を行い、各校の実践を共有しました。

約100事例を創出!校務生成AI実践事例集

実証校教職員アンケート結果

校務生成AI実践事例集



令和6年度

校務生成AI実証事業
利用前アンケート調査

調査対象

実証校(10校)教職員270名

ポイント

令和7年度、Microsoft Copilotを活用できる環境に

初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドラインを遵守し、教育機関ライセンスのMicrosoft365環境で、教職員一人ひとりに発行しているMicrosoftアカウントを用い、Microsoft Copilotを安全に活用できます。校務文書の下書き、要約、教材作成のたたき台に活用しつつ、出力は参考として必ず教職員が確認・修正し、最終判断と責任は人が持ちます。

(1) 大阪府情報活用能力ステップシート

大阪府では、児童・生徒が学び方を身に付けるとともに、1人1台端末や学校図書館等、メディアの特性を活かし、アナログとデジタルを融合させ、多様な媒体や手段から情報を収集したり、適切に活用したりする力の育成をめざし、「大阪府情報活用能力ステップシート」を作成しました。枚方市では、このステップシートを活用して、各教科等の学習の中で児童・生徒の発達段階を考慮しながら、情報活用能力を系統的に育成していきます。

大阪府情報活用能力
ステップシート



大阪府情報活用能力ステップシートの構成と特徴

- 1 子どもたちが学び方を習得し、自立した学習者となるために必要な「学びスキル」
- 2 学校図書館の3つの機能を活用し、より正確でまとまった情報が掲載されているという本の良さを生かして情報を得る等、各メディアも含む情報の特性を理解し、学校図書館で自ら必要な情報を探し出したりするなかで、課題解決を図るために必要な「学校図書館活用スキル」
- 3 子どもたちが、文房具の1つとして、1人1台端末とクラウドを日常的に活用しながら学びを深めるために必要な「ICTの基本操作スキル」
- 4 生成AI等の普及も見据え、社会に広がっている情報・ニュース等が事実に基づいているかどうか正誤を判断して、正しい情報を調べることや、情報を安全に活用するために必要な「情報モラル・情報セキュリティ」
- 5 コンピュータが動く仕組みや考え方を理解し、順序を考えて説明するなど、論理的思考力を身に付けるために必要な「プログラミング」

ポイント1

各ステップは、めやすとなる学年を示していますが、「何ができるようになるか」に着目して子どもたち一人ひとりの状況に応じて段階的に指導、学習を進められるようにつくっています。

ポイント2

情報活用能力体系表をまだ作成していない市町村や学校が参考としていただくことはもちろん、すでに作成している場合においても、今後、更新や改訂する際の資料として活用できるよう汎用性のあるものにしています。

ポイント3

体系表で示したつけたい力に関連した授業実践事例の一部を閲覧できる二次元コードを掲載することで、具体的な授業実践にアクセスすることができるようにし、教員にとって具体の授業構想につながるものにしています。

情報活用能力って？

言語能力や問題発見・解決能力と並んで学習の基盤となる資質・能力の一つであるとされています。学習指導要領(平成29年告示)解説(総則編)では、「将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要」と述べられています。



分類	項目	STEP1 (めやす：小学1・2年生)	STEP2 (めやす：小学3・4年生)
1 学び スキル	A 課題の設定	身の回りの事象に関する課題を設定できる	地域の事象に関する課題を設定できる
	B 収集	情報を収集する身近な方法を知り、実施できる	情報を収集する複数の方法を知り、実施できる
	C 整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図、簡単な表やグラフを用いて情報をまとめることができる 共通と相違、事柄の順序など、情報と情報の関係を探えられる 正しくない情報があることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい情報かどうか確かめようとする 情報カードを使って、集めた情報の記録や整理ができる 表やグラフなどを用いて情報を整理できる 複数の情報から傾向、変化を捉え、共通点や相違点を見いだすことができる 全体と中心など、情報と情報の関係を探えられる
	D まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> 複数の情報から、わかったことをまとめられる 自分の考えを写真や絵、手書き入力等による文字で、表現できる 紙芝居、絵本、絵カード、ペープサートなどを使って表現できる 	<ul style="list-style-type: none"> 同一内容について2、3点以上の情報を比較したり、関係付けたりして、新たな意味を見いだせる 自分の考えや意見を壁新聞やポスター、リーフレット、スライド等で相手を意識して表現できる
	E 振り返り・改善	情報活用を振り返り、感想をもつことができる	情報活用を振り返り、改善点を見いだせる
2 学校図書館 活用スキル	F 本やメディアに親しもうとする態度	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの本にふれ、いろいろな本があることを知る 読み聞かせ等を通じて、読書を楽しむ 読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ブックトーク等を通じて、さまざまな本にふれ、その良さを知らうとする 必要な知識や情報を得ることに、読書を役立たせようとする
	G 図書館資料を利用する力	<ul style="list-style-type: none"> 知識(調べたこと)と体験をつなげられる 何かを知りたいときに、学校司書等、学校図書館に關係する人々に自ら尋ねるなど、関わりをもつことができる 学校図書館のきまり、本の借り方・返し方を理解して、学校図書館を利用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 考えに対する理由や事例(調べたこと)をつなげられる 学校図書館にある本の配架や分類の仕方を理解して、学校図書館を利用できる
	H メディアを活用する力	<ul style="list-style-type: none"> 自然科学の本、図鑑の使い方がわかる 抜き書きをしたり、絵や文などを用いたりして、調べたことをまとめる方法がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 百科事典、国語辞典、漢字辞典、地図、地域資料などの使い方がわかる 本の目次や索引の使い方を理解し、さまざまな教科の学習に生かすことができる 調べたことや自分の考えをまとめるとき、著作物の引用や出典について明示することができる
	I 公共図書館等を活用する力	公共図書館の利用方法を知り、利用できる	各種施設(公共図書館・博物館・資料館)の特徴を知り、どこへ行けばどんな資料が得られるか理解することができる
3 ICTの 基本的操作 スキル	J 入力	起動や終了、ログイン・ログアウト、写真撮影、文字のフリック入力又は手書き文字自動変換機能などの基本操作ができる	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(8文字程度/1分間)
	K アプリケーション等の使用・操作	標準仕様のWEBブラウザやカメラ機能など、基礎的なアプリケーションを操作できる	標準仕様の文章作成、表計算、プレゼンテーション系アプリケーション、ノーコードのプログラミングソフトを操作できる
	L 検索	インターネット上の情報を閲覧することができる	キーワード検索ができる
	M 保存	ファイルの呼び出しや保存ができる	クラウドを用いて、ファイルの検索や共有ができる
4 情報モラル・ 情報 セキュリティ	N 情報の取り扱いに関する理解	人の作った作品や情報を大切にすることや、その情報をむやみに他者に伝えてはいけないことを理解できる	<ul style="list-style-type: none"> 自他の情報を発信、やり取りする場合の責任を理解できる 他人が制作した情報を活用する際はURL等を含めた引用を明記する必要があることを知る
	O 情報セキュリティに関する理解	情報機器を使用する際の基本的なルールに基づき正しく使用できる	パスワードを人に教えないなど、情報を守るための基本的な方法を知る
	P 情報モラルなどに配慮しながら情報を活用する力	<ul style="list-style-type: none"> パスワードやIDを自分で適切に管理・使用できる ルールやマナーを守り、クラウドやインターネットの情報を閲覧できる インターネット上に正しくないものがあると理解できる 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の個人情報やIDを教えたり、不審なサイトにアクセスしたり、不審なアプリケーションをダウンロードしたりすると危険があることをわかったうえで、インターネットを利用できる インターネット上にある正しくないものを見極めようとする SNSの便利さと危険について知る
	Q 情報を適切に取扱いながら情報社会に参画しようとする態度	<ul style="list-style-type: none"> 自他の大切さを理解する 情報や情報技術を使おうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の情報の大切さを踏まえ、適切に行動しようとする 情報や情報技術を、生活に生かそうとする
5 プログラ ミング	R 問題解決の手順を考える力	手順を順序立てて説明できる	手順を図解し、説明できる
	S プログラミング的思考	コンピュータには明確な手順を命令する必要があることに気づく	意図した簡単な動作を実現するために、順序を考えたり、くりかえししたりする命令の組み合わせを考えることができる
	T 分解	動きはいくつかの小さな動きに分けられることに気づく	取り組みやすいように小さな動きに分解できる
	U 抽象化	コンピュータに命令するための記号があることに気づく	コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる
	V 組み合わせ	ものごとには順序のある場面があることに気づく	意図した活動を実現するための命令の組み合わせを考えることができる

STEP3 (めやす：小学5・6年生)

STEP4 (めやす：中学生)

実践事例

小4「国語」事実をわかりやすく報告しよう

小4「音楽」歌声のひびきを感じ取ろう

小3「算数」長いものの長さのかり方と表し方

社会の事象に関する課題を設定できる

調査を設計し、情報を適切に収集・検証できる

- 複数の表やグラフを用いて整理できる
- 情報が信頼できるものか確かめることができる
- 得た情報について論理的に考察し、新たな意味を見いだせる
- 原因と結果など情報と情報との関係を捉えられる
- 情報を取捨選択し、スライドや文書作成、表計算ソフトなどの複数のソフトで相手や目的に応じて表現できる
- インタビューなどで聞いたことや見学・観察などの体験から得られた情報と、統計資料などから読みとったことを関連づけて報告文を書いたり、ポスターセッションなどを行うことができる

情報活用を振り返り、効果を見いだせる

実践事例

小6「算数」算数で読みとこう

小5「国語」新聞記事を読み比べよう

小5「社会」これからの工業生産とわたしたち

社会課題に関する課題を設定できる

統計的な調査も含めて設計し、情報を効果的に収集・検証できる

- 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉えられる
- 目的に応じて、複数の表やグラフを用いて情報を統計的に整理・分析することができる
- 目的に応じて、収集した資料を多面的・多角的に考察し、新たな意味を見いだせる

様々な相手や目的に応じて情報をまとめ、WEB等で適切且つ効果的に表現できる

情報活用を振り返り、観点を決めて評価し、改善できる

実践事例

中1「社会」世界の諸地域

中2「理科」電流とその利用

中3「国語」古典に学ぶ「論語」

実践事例

小3「理科」昆虫をそだてよう

小4「理科」オリジナル星座をつくろう

小4「国語」生き物のひみつリーフレットを作ろう

小4「国語」アップとルーズで伝える

- ビブリオバトル等を通じて、本の面白さや魅力を知り、伝えようとする
- 読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づく
- さまざまな資料、データから読みとった複数の情報をもとに、自分で考えを構築できる
- 日本十進分類法(NDC)のしくみを理解して、学校図書館を利用できる
- 年鑑、新聞、雑誌などの使い方がわかる
- 参考にした資料について、参考文献リスト等を作成することができる

目的に応じて、各種施設(公共図書館、博物館、資料館)の資料等を利用することができる

実践事例

小5「国語」環境問題について報告しよう

小6「総合的な学習の時間」職業紹介リーフレットを作ろう

小5「国語」総合的な学習の時間 伝説を語ってリーフレットを作ろう

小6「国語」防災ポスターを作ろう

- 本やメディアを適切に選択し課題を解決しようとする
- 自分の考えを広げたり深めたりすることに、読書を生かそうとする
- 考えの根拠として、さまざまな資料、データから読みとった複数の情報を活用し、自分の意見を表現できる
- レファレンスサービスの活用方法について理解して、学校図書館を利用できる
- 参考図書などの使い方がわかる
- 目的意識や他者意識をもって工夫して情報を発信したり、フィードバックをもらって改善したりすることができる
- 目的に応じて必要な学校図書館メディアを複数選択し、比較検討することができる

自ら調べたいことや知りたいことを解決するために各種施設(公共図書館、博物館、資料館)を利用し、課題解決のために活用することができる

実践事例

中1「理科」いろいろな生物とその共通点

中2「総合的な学習の時間」SDGs

中2「家庭」幼児の生活と家族

中3「社会」世界の諸地域

実践事例

小4「理科」地面を流れる水のゆくえ

小3「社会」店ではたらく人と仕事

小3「総合的な学習の時間」将来の仕事を紹介しよう

キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(16文字程度/1分間)

目的に応じて様々なアプリケーションを選択し、操作できる

AND、ORなどの論理演算子を用いた検索ができる

クラウドを用いて、ファイルやフォルダの管理ができる

実践事例

小5「社会」これからの工業生産とわたしたち

小6「社会」世界のなかの日本とわたしたち

小6「算数」データを整理・分析しよう

キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる(25文字程度/1分間)

複数のアプリケーションを関連づけて操作できる

目的に応じて適切に検索できる

クラウドを用いて、規則性に従ったフォルダをつくったり、圧縮やパスワードによる暗号化などを用いた管理ができる

実践事例

中1「理科」植物の分類

中2「数学」図形の調べ方

中3「国語」情報を関係づける

実践事例

小4「道徳」SNSでの伝え方について考えよう

著作権等の情報に関する権利と重要性について理解できる

セキュリティソフトやフィルタリングを適用させるなど、情報を守るための手段や方法を知り、使用できる

- ルールやマナーを守り、チャットやクラウドなどを適切に利用し、他人とやり取りができる
- 社会に広がっている情報・ニュース等が事実に基づいているか判断したり、正しい情報について調べたりすることができる
- 情報に関する自他の権利があることを踏まえ、適切に行動しようとする
- 情報や情報技術を、よりよい生活に生かそうとする

実践事例

小6「総合的な学習の時間」言葉や行動について考えよう

発信した情報等について情報社会に及ぼす影響を理解できる

セキュリティソフトやフィルタリングなど、情報セキュリティ確保のための対策を自ら確認し、実施できる

- 生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点がわかる
- より良い回答を引き出すための生成AIとの対話の方法がわかる
- 目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる
- 情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする
- 社会は互いに法律やマナーを守ること成り立っていることをふまえて、行動しようとしている
- 情報や情報技術を、持続可能な社会づくりに生かそうとする

実践事例

中3「国語」情報との付き合い方を考えよう

実践事例

小4「図画工作」まほうの花束

小4「総合的な学習の時間」ロボット掃除機

フローチャートなどにより表現できる

意図した複雑な動作を実現するために、条件によって動きを変えたりする命令の組み合わせを考えることができる

複雑な動きを、取り組みやすいように小さな動きに分解できる

目的や意図に合わせ、必要な動きを見出し、コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる

意図した活動を実現するために、複数の命令を組み合わせてより効果的な組み合わせを考えることができる

実践事例

小5「算数」体積

小5「理科」ぼくらの探究レポート

アクティビティ図などにより表現できる

生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見いだして課題を設定し、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想したり、処理の流れを図などに表し思考等を通じて解決策を具体化できる

計測・制御、双方向性のあるコンテンツの制作、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングを行うために、必要な動きに分解できる

目的や意図に合わせ、必要な動きを見だし、課題解決に必要な機能をプログラミング言語等を用いて表現することができる

安全・適切なプログラムとなるように、複数の命令を組み合わせた後、他者と協働して粘り強く、より効果的なプログラムとなるよう評価、改善及び修正を行うことができる

実践事例

中3「技術・家庭」Scratchで課題を乗り越えよう

中3「技術・家庭」計測・制御のプログラムによる問題解決

(2) 年間指導計画 小学6年(例)

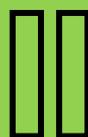
前述の大阪府情報活用能力ステップシートを該当学年で確実に育成するため、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から、各校の実態に応じたカリキュラムの編成を行います。

○ 学びスキル	A 課題設定	B 収集	C 整理・分析	D まとめ・表現	E 振り返り・改善
○ 学校図書館活用スキル	F 本やメディアに親しもうとする態度	G 図書館資料を利用する力	H メディアを活用する力	I 公共図書館等を活用する力	-
○ ICTの基本的操作スキル	J 入力	K アプリケーション等の使用・操作	L 検索	M 保存	-
○ 情報モラル・情報セキュリティ	N 情報の取り扱いに関する理解	O 情報セキュリティに関する理解	P 情報モラルなどに配慮しながら情報を活用する力	Q 情報を適切に取り扱いながら情報社会に参画しようとする態度	-
○ プログラミング	R 問題解決の手順を考える力	S プログラミング的思考	T 分解	U 抽象化	V 組み合わせ

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語科											
各教科等	理科通年										
	実験や観察等の記録をとる、ネット上の情報を集める(体のつくり等)。学習したことをまとめたり発表したりする。(B、C、D、H)										
	社会通年										
	見学や調査等の記録をとる、ネット上の情報を集める(歴史等)。学習したことをまとめたり発表したりする。(B、C、D、H、L)										
プログラミング											
学習の時間	総合的な学習の時間 通年										
	見学や調査等の記録をとる、ネット上の情報を集める。学習したことをまとめたり発表したりする。(B、C、D、G、H、K、L、N)										
道徳科での情報モラル											

「いつでも」「どこでも」「つながる」

1人1台端末の可能性



無限大

枚方版ICT教育モデル ～ICTの活用による新しい学校教育の確立～

発行日 令和3年(2021年)3月 第1版
令和4年(2022年)3月 第2版
令和5年(2023年)3月 第3版(令和5年3月27日一部改訂)
令和6年(2024年)3月 第4版(令和6年3月27日一部改訂)
令和7年(2025年)3月 第5版(令和7年3月27日一部改訂)
令和8年(2026年)3月 第6版(令和8年3月27日一部改訂)

著者名 枚方市教育委員会事務局
発行者 枚方市教育委員会事務局
発行所 枚方市教育委員会事務局
連絡先 枚方市教育委員会事務局
〒573-1159 大阪府枚方市車塚1丁目1-1
輝きプラザきらら 枚方市教育委員会事務局
電話番号 050-7105-8051

・本モデルの無断転載・複写は、著作権法上の例外を除き禁じられています。
・インターネット、モバイル等の電子メディアにおける無断転載もこれに準じます。